

平成 29 年 10 月 25 日

北海道サッカー協会 審判委員会 各位

北海道レフェリーアカデミー第 9 回 議事録

報告者：須摩 和樹（小樽）

<日 時> 平成 29 年 10 月 20 日（金）～10 月 22 日（日）

<場 所> 花咲スポーツ公園陸上競技場、神楽公民館、東光スポーツ公園競技場、
東川ゆめ公園サッカー場、忠和公園多目的広場

<参加者>

JFA 派遣インストラクター 梅本博之様

北海道サッカー協会審判委員長 柳元良文氏

インストラクター：木島 栄 氏、木下 英則 氏、 砂川 邦裕 氏
伊藤 真也 氏 古曾部 統太郎 氏

レフェリーディベロップメントオフィサー：山崎 裕彦 氏

審判員 : 堀 悠雅、板矢 智志、須摩 和樹
オブザーバー : 強化指定審判員（14名）

10月20日（金）

15:00 集合：花咲スポーツ公園陸上競技場

15:30 体力テスト

40メートル走×6セット

インターバルテスト 75m-25m 15s-18s ×40セット

16:45 移動・夕食

18:45 開校式

19:00 大会要項・競技運営上の注意事項 専門委員会宮武審判委員長

19:20 競技規則テスト

20:00 講義1 「動きとポジショニング」梅本 INS

ポジショニングと動きの中で攻守の切り替わりに重点をおき講義を行った。

攻守が切り替わった際に遅れずに展開についていくには、最もゴールに近い攻撃をされた時のイメージを持つことで展開に遅れることなくついていくことができる。

動きの質の中では、ON と OFF 際にどのような動きをするかということである。

ON とは、鋭い動きで争点へと近づくことやスプリントのような動きで心拍数が高いような状態のことで、OFF とは、周囲を見つつ情報収集を行い動きのきっかけを生み出す段階のことで、心拍数は低い状態のことである。

サイドステップは、動きのつなぎ目として使う ON～OFF へ OFF～ON へと繋いでいく。講義では実際に日本のトップレフェリーの映像を用いて ON の動き・OFF の動きを確認、共有した。いつ、どのタイミングで動き出すかまた、広い視野を確保するために体の向きが重要であるということが確認できた。

90分間の集中力続かせるためには、常に脳みそを ON にしておくことである。そのためにはフィジカル面での余裕を持つこととメンタルの強さが重要である。



10月21日（土）

6:30 モーニング

8:30 競技会場到着 競技会場到着後フィールド点検を行った。

10:30 第一試合 12:20 第二試合 14:10 第三試合

16:00 各会場振り返り (北照高校対函館大有斗)

R 自己分析→動きについては、比較的到自己的見たいものを見れるところに動いていたと感じる。

0-0で試合が進み、熱が上がっていたが、選手はプレーに集中できており、円滑に運営できていたと感じる。警告に関しては、Adv.後に警告するべきところがあったり、函館の4番が繰り返して競技規則を違反しているところがあったりと、そのあたりでの一貫性に不安定が生じていた。

INS 分析→試合を通して選手が集中していた。スローインの再開位置を試合開始から終わりまで細かく指示していたから、リード感があった。展開への読みができており、いい準備ができていたため、動きにいろんな選択肢があつてよかった。ただ、先に動きすぎて下がるを得ない場面があつたため、その際の下がり方を意識するべき。FKの壁のコントロールの際に中の争点も意識しなければ、何かあつた時に対応できない。



(札幌創成対札幌日大)



R 自己分析→アドバンテージを的確に適用できるよう笛のタイミングを考えていたが、適用できない状況でも笛を吹くことが遅かったのでベンチなどから声が挙がるが多かった。負傷者の対応も頭部接触であつたにもかかわらず、対応が数秒遅れてしまった。

INS 分析→アドバンテージを適用できそうな状況を整理すると良い。笛のタイミングが遅いことからベンチからの声によって判定していると思われる。そのようなことや副審とのサシ違いがあつたため審判団としてリスペクトされないような要因を作り出している。また、不用意なジェスチャーもありかつ自信なさげであるためそのようなことはやめたほうが良い。コーナーキックでのマネジメントは課題である。早めの介入、パブリックに行くことが必要である。負傷者の対応も悪い。重篤とはどのような状態を指すのか整理し、直ちにプレーを停止する必要がある。動き出しも遅いためなぜ遅いのか考えると良い。

17:30 移動

18:30 全体振り返り 伊藤 INS... 競技規則テスト解説

第3条 競技者の数、交代の数、反則と罰則、フィールド外の競技者

第6条 副審、第4の審判員

第10条 ペナルティーマークからのキックの進行中

第11条 オフサイドの反則

第14条 進め方、反則と罰則について確認をした。

19:15 講義2「試合の振り返り」 梅本 INS

試合中多く繰り返されるスプリントでは、視野が狭くなってしまうので狭くならないようにポジショニングを取り視野を確保しながら争点を監視していくことが判定をしていく中で欠かしてはいけない。

FKの中では、クイックスタートを保証するためにレフェリーのポジショニングが重要で、ボールによっていったらクイックスタートに遅れてしまうこともあれば、ポイントを示して壁を下げたらクイックスタートを保証することができなくなってしまうので、ポイントと壁との中間のところに場所を取り壁を下げるということが一つの手段として取り上げた。

開始10分の中でチームのプレースタイルやキーマンとなる選手のプレースタイルを把握していきそれと同時にゲームプランを見ていきながら残りの時間のレフェリングを考えていく。

状況が変わっていく中で試合の中で修正をしていく能力は必要である。



10月22日(日)

6:30 モーニング

8:30 競技会場到着 競技会場到着後フィールド点検

10:30 第一試合 12:20 第二試合 14:10 第三試合

16:00 各会場の振り返り

(北海道大谷室蘭対釧路北陽)

R 自己分析→大谷室蘭の細かく繋ぐサッカー、釧路北陽のカウンターに対応できるポジショニングを意

識していた。室蘭の攻撃時のポジショニングに苦戦し、コースに入ってしまった場面が多々あった。前日の講義にあった、選手の後ろに隠れるということの意識が足りておらず、北陽の14番の後ろにいればもっと楽に視野の確保ができた。PKを2本とったが、警告なのかノーカードなのかの判断が遅く、客観的に見ると、頼りない審判員に見えていたと感じる。

INS 分析→視野を確保するために体の向きを意識していたが、不自然すぎて窮屈そうに見えた。もっと楽に視野を確保できる体の向きを考慮すべき。また、ボールが自分の背後を通ることがあったため、視野からボールが消えてしまうことのないような体の向きを考えなければならない。走る姿勢や、シグナルの姿勢を少し意識することでキレや力強さが増してよくなるから、意識して行うと良い。

(駒大苫小牧対北海)

R 自己分析→競技者の様子を意識し、不満が溜まっていないか、また激しさが違う方向に行っていないかということを考えることができたことから、結果的に試合終了後は両チーム検討を称えあっていたためその点は良かったと思う。ホールディングの判定基準が曖昧であったため課題として修正したい。またCKやFKでのマネジメントが効果的でないことがあったため早めの介入や手立てをしつかりと行う。

INS 分析→アドバンテージを適用した後の注意や全体的に知れ渡るような注意が必要であった。そのためファウルされた競技者の気持ちなどを考えていくと良い。動きについては直線的な動きが多く、レフェリースайдで減速していることがあった。その中でも大きな攻撃展開になった際にトップスピードでついていくことができているので、トップスピードの中でも目線を意識していくことが必要である。動き自体は軽やかであるがそのためシグナルに機敏さやメリハリを見直すと良い。首の振り方もまだ修正されていない。競技者がどういう位置関係で接触しているかということ意識していくと良い。

16:30~17:30

振り返り(今回で学んだことはどんなことがあるか)・
閉講式(山崎 INS, 古首部 INS, 伊藤 INS より)

